

29年度

「防災VG」総会開催

28年度活動報告

29年度活動計画(案)が承認

- 開催日時：H29年1月21日
10時～12時30分
- 開催場所：釜利谷西コミュニティハウス
- 出席者数：51名(内ゲスト2名含む)

28年度の活動報告と29年度の活動計画・役員体制(新副代表 田崎幸雄・案)ともに提案通り承認されました。

グループリーダーからの提案として、来年度からは、リーダーの選考は名簿順の輪番制にしたかどうか。任期は1年とするかという内容です。ただし、各リーダーが皆さんと相談しながら実施していくとの条件付きで承認されました。

防災アドバイザー講師 秦好子さんの話、「熊本地震被災地では実際に何が起ったのか! 報道されない現実の一端・・・」は生々しく、悲惨で報道されない事など取り交ぜながらのユーモアたっぷりの報告で、とても好評でした。時間をとってもう一度聞きたいとの声もありました。

参加者51名と多くの参加を戴いたことは、防災VGメンバー一人一人が防災意識の高さ、グループの結束の力を表したものであると改めて確信しました。只、お話が押しすぎたため、スキルチームの分科会が開催できなかったことは残念でしたが、全体としては成功裏に終わった総会でした。

ご協力、大変ありがとうございました。



防災VG総会挨拶

代表 徳岡 正彦

「昨年は熊本地震や北海道の台風、鳥取西地震、阿蘇山噴火など自然災害が多くあり、多くの被災者が出ました。益々防災・減災のVG活動の必要性・重要性を感じております」

防災VGの現況は

1. 防災VGはH22年11月に発足し、今年で6年2ヶ月となりました。
現在 防災V員は全員で88名、内女性は38名で43.2%です。
2. 昨年発足しました5つの「スキルチーム」に登録された方々(含む複数)の合計は延べ88名です。
3. 年末のアンケートの結果、災害時要援護者数は138軒170名で昨年比+4軒+1名でした。
4. 防災VGの主な活動は全員で行う「災害時要援護者安否確認」と5つの「スキルチーム」の活動の2本立てです。
5. 今回改定の自治会会員名簿に防災指針、災害対策本部設置要綱、横浜市の地震被害の想定、家庭防災は「自助」が重要、我が家の備蓄品兼充足判定チェック表、家族の連絡・貴重品リスト、災害時の自治会の防災体制、災害時の連絡方法と情報、地域防災拠点避難場所、ポリ袋を使った炊飯調理、家具の転倒防止が掲載されていますので ぜひ各自で確認ください。

*最後に本日は特別にお願いしまして「熊本地震」等で広くボランティア活動をされておられるその道の専門家の秦好子さまにお越し頂き 特別講演がありますので ご期待ください。詳しくは 28年度の活動と29年度の活動計画報告案で説明致します。簡単ですがこれを持ちまして 開会の挨拶とさせていただきます。



熊本地震では、実際何が起ったのか

報道されない現実の一端・・・
どの様に備えるのか?

環境・防災コンサルタント
秦好子様

秦さんの報告は被災地の現状を基にしたもので、極めてリアルなもので報道されないものも多々ありました。

また、ユーモア・ウィットを織り交ぜた話で皆さんから大変好評の言葉を戴きました。時間が足りなかつたのは残念でした。

なお、みな様には資料をお配りしておりますので、ポイントとなる項目のみ記載させて頂きます。

- ◎日本全国、地震・台風・豪雨など自然の営みと折り合せて暮らす「知恵とわざ」が不可欠
- ①住まいを守ること。②無駄にならない備え
- ◎自助の到達も目標—個人別減災レシピをつくる
- ◎熊本地震被災地から学ぶもの

教訓「熊本には地震はない・想定外」—12月20日までに178人が死亡。この中の123人は、避難後体調悪化で死亡。

◎法の限界。法を守っても被害を受けることを知る。

◎避難者からのわがまま・身勝手などのクレームの多発。

◎避難所の環境—スペース。間仕切り。仮設トイレ。ダンボールベツト。プライバシー。衛生。

◎避難用食事—国がピストン方式で手配した給食は病人には過酷な食事。

ボランティアが別な優しい弁当を提供した。

◎自宅避難生活の充実が課題—生き延びる準備を

住まいの耐震性・食べる・排せつする・安眠できるなどが重要。

ポイント

自助努力が生活再建の大きな差につながる。

▲共助 ▲自助 何よりも▲近所力



ボランティア 募集中



防災ボランティア活動を下記のチームで行っています。一緒にやりませんか “会員募集中”

防災ボランティア

防火チーム、情報・通信・電気チーム、医療・介護チーム、食糧・物資チーム、防災資機材取扱チーム

連絡先 自治会館 784-4447



防災ボランティア総会に参加して

自治会長 野々山美世子

防災VGが発足して6年が経つたと言いつ事です。それ以前より民生委員の方が災害時に援助を必要とする人を支援して欲しいと色々な部に呼び掛けました。なかなか実現しませんでした。防災VGはその目的のために新たに立ち上がった団体ですが、スキルチームも加え順調に発展しているのは素晴らしい事だと思います。

防災という、起きるか起きないかわからない、起きてもないこと本当はどうなるかわからない事に対して高い意識を保ちグループを継続させるのは大変と想像します。

今年度は関ヶ谷自治会が地域防災拠点の当番でしたので、防災VGの皆様にご協力いただき、感謝しています。防災に関わってきたメンバーリストの必要性を強く感じました。

私も防災VGのメンバーとして何人かの人を受け持っていますが、やはり気になるものでどんな方か、どうしていついやるか、常に新しい情報をもらいたいのも防災VGの役割の一つだと思います。

ボランティアの皆さんは失礼ながら結構高齢ではありますが、皆様には、何かあった時は出来る事があれば役に立ってほしいという気概があります。今年度ケアプランの運営委員会に配布された資料に於ける、この自治会は行政から要支援・要介護の認定を受けている人の比(65歳以上の方)対

する比率は大変低くて12.3%(45.6丁目)の事です。

金沢区の高齢化率は平均27.4%、要介護・要支援の認定率は16.6%となっています。関ヶ谷自治会の高齢化率は5丁目、6丁目では50%を超えているので要介護・要支援の認定率が12.3%というのは驚異的に低いと言えると思います。

健康な高齢者が多いという事こそ理由の一つは何か人のためにできる事はやりたいと、集まりには積極的に参加している方が多いという事だと私は思っています。

この自治会にはボランティア組織が色々ありますので、人のためになり、自分の健康にも役立つ防災VG等のボランティアには是非ご参加下さい。

自助・共助・公助



「防災ボランティアグループ総会」に出席して

60-4 西尾 恵美

「防災ボランティア」：年齢が年齢だし、膝を手術して機敏に動けない自分には縁のないものかと思っていました。2014年地区長の時自分たちのブロックに防災ボランティアがないことがわかり、私にもできる事があるだろうか？

ボランティアは自分の出来ることをすればよいのだと思い、現在は「食糧・物資チーム」と「医療・介護チーム」に属し、出来る限り参加することをモットーに活動しています。

1月21日総会では各チームの活動が報告され、真面目に取り組んでいる事が良く分かりましたが、いざ震災が起きた時に活用できるか難しい問題だと思います。防災日より等で自治会全体への啓発も大切だと思います。

町の高齢化とともにボランティアの顔ぶれも高齢化が目立ちます。今回会議には若い地区長さんたちも多くみられるようになったので、是非防災ボランティアグループにも参加してもらって積極的に働きかけていく事も必要ではないでしょうか。

防火・減災の切り札 感震ブレーカー設置は取り組みやすい事なので自治会として推進してほしいと思います。

総会の後、熊本地震被災地で活動された環境防災コンサルタントの 秦 好子さんのお話を聞きました。実際に何が起ったのか。報道されない現実を聞いてどうしように備える事が必要なのか、経験に基づいた貴重なお話でした。避難民にならないよう備える、その為には自宅の避難生活

の充実が課題。熊本地震では、阪神大震災、東日本大震災に比べて被災者数が少ないのに死亡者が多いのは食物と生活環境が影響したそうです。

日頃から事前に準備できる対策。

住まいの耐震性・食べる・排泄する
安眠できる・・・

自分自身、そして周りの人達、弱い立場の人達、協力し合い、助け合って備える努力をしよう。

27年防災白書によると誰に助けられたか？

60%は家族、住民に助けられる。

77%は近隣住民が助ける。

この様な調査の結果から
自助・共助 そして何より「近所力」を高めることが大切というお話でした。

「おせっかいなおばさん」と言われても、日頃から近所の人達と「コミュニケーション」をとり助け合って楽しく暮らしていきなさい、という「おせっかい」を続けていきたいと思います。

近所
づきあい



『防災部・防災ボランティア今後の活動予定』

防火チーム<スタンドパイプの取り扱い訓練>

- 日時 3月18日(土)午前10時~12時
- 場所 草舞台公園南側の消火栓廻り(予定)
- 参加者 防火チームを中心とした防災ボランティア及び住民の方で希望される方

次回防災だより : H29-5月15日予定

ご自宅の「カセットボンベ」チェックください!

日本瓦斯(ニチガス)が1月30日、卓上コンロ用カセット 2011年12月以降に「カセットこんろ用ガスボンベRF 1P」や「カセットこんろ用ガスボンベ ジョイファイヤー1P」などの製品名で製造・出荷された。ボンベから微量にガスが漏れる恐れがあるとして、500万本を自主回収すると発表した。ボンベはホームセンターやドラッグストアで販売され、製品には「充填」日本瓦斯株式会社」と記されている。

問い合わせは同社(0120・469・079)へ

